

ばいどく|

検索

梅毒 性感染症

梅毒 ほっとくと危ない

梅毒 不安なときはまず検査

## 梅毒(ばいどく)が拡大しています。

- ・梅毒は、主に、性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。
- ・多数の相手と性的接触を持つと感染する(または感染させる)リスクが高まります。
- ・コンドームの適切な使用により感染リスクを減らすことができます。
- ・梅毒は、早期に発見することで、適切な治療により治癒が可能です。
- ・症状があるときや、不安なときは、早めに近くの医療機関や保健所で検査を受けましょう。

※福岡県のHPでは、梅毒の症状や保健所における無料匿名の検査に関する情報を掲載しています。



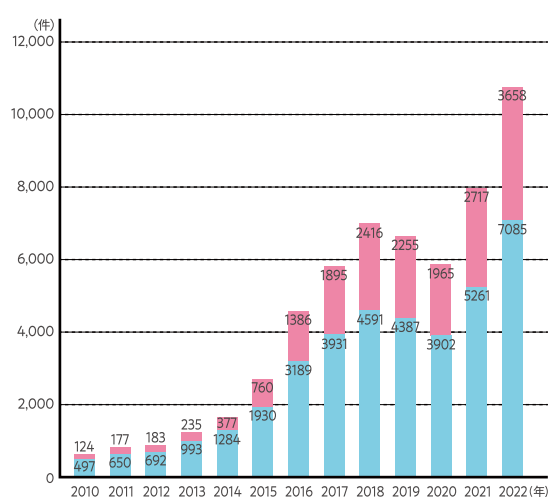
## 梅毒とは

●梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされる感染症で、主にセックスなどの性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。オーラルセックス(口腔性交)やアナルセックス(肛門性交)などでも感染します。また、一度治っても再び感染することがあります。

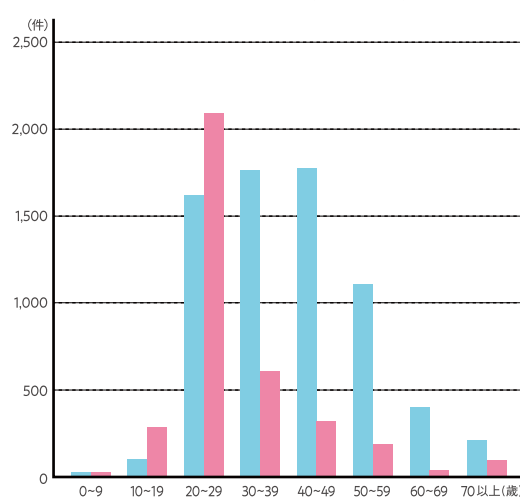
## 梅毒が拡大しています

- 男性20代~50代、女性は20代が突出して患者さんが増えています。
- 梅毒に感染すると、性器や口の中に小豆から指先くらいのしこりができたり、痛み、かゆみのない発疹が手のひらや体中に広がることがあります。また、これらの症状が消えても感染力が残っているのが特徴です。
- 治療をしないまま放置していると、数年から数十年の間に心臓や血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、時には死にいたることもあります。
- 妊娠中の梅毒感染は特に危険です。妊娠している人が梅毒に感染すると、母親だけでなく胎盤を通じて胎児にも感染し、死産や早産になったり、生まれてくるこどもの神経や骨などに異常をきたすことがあります。生まれたときに症状がなくても、遅れて症状が出ることもあります。

■梅毒報告数の推移※



■年代別にみた梅毒報告数(2022年)※



※2010年~2020年は、感染症発生動向調査事業年報による。2021年は、第1~52週2022年10月8日時点集計値(暫定値)、2022年は第1~44週までの報告を対象。

## 予防と検査、治療

- コンドームの適切な使用により性感染症のリスクを減らすことができます。
- 症状があるときや、不安なときは、あなたと大切なパートナーを守るためにも、早めに検査をしましょう。保健所で匿名・無料で検査を受けられる地域もあります。
- パートナーも感染している可能性があります。感染が判明した場合はパートナーも検査を受けましょう。
- 梅毒は、早期に治療をすれば注射薬や内服薬で治すことができます。

